

授業評価の自由記述から見る遠隔授業の課題とその対応

グローバル教育支援機構大学教育支援部門

要 旨

2020 年前期、コロナ禍という特殊な状況によって突然始まった本学における遠隔授業は、学生・教員双方とも不慣れなこともあって、多くの混乱をもたらした。そこでグローバル教育支援機構大学教育支援部門においては、後期の教育改善のためのエビデンスを得るため、学生による授業評価において遠隔授業に関する質問項目を多数設け、またそこで得られた自由記述の分析を行った。多くの学生から改善の要望が寄せられた一方で、遠隔授業について積極的に評価するポジティブな意見も多く寄せられた。2020 年後期に向け、問題点を改善し、良い点はより充実させていくためのエビデンスを得ることができた。

キーワード

学生による授業評価、自由記述、遠隔授業、コロナ禍、Web 調査

はじめに

2020 年 2 月 27 日、日本の学校は未曾有の危機に直面した。新型コロナウイルス感染症に対応するため、総理は全国すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校について、3 月 2 日から臨時休業を行うよう要請したのである。突然始まった学校の休校はその後、約 3 ヶ月間続く。大学にその影響は及ぶ。急遽、本学においても前期のほぼすべての講義・授業が遠隔で行われることとなった。

しかし学生はもちろん、教員側も準備不足のまま始まったオンラインでの取組は、不慣れなこともあって多くの混乱を引き起こしたと言ってよい。後期（場合によっては来年度以降）も基本的には遠隔での授業が継続することとなるため、早急な課題の把握が必要である。

そこでグローバル教育支援機構大学教育支援部門では、後期の講義の改善に繋げるために 2020 年度前期の「学生による授業評価アンケート」の自由記述欄を整理し検討を行った。具体的には、設問 26「遠隔授業で利用したシステムへの意見があれば、記入してください。」、設問 27「より良い遠隔授業への提案があれば、記入してください。」、設問 28「遠隔授業等について、ご意見・ご要望等がありましたら、記入してください。」という間に

対して寄せられた学生の記述を、国際基督教大学（ICU）「2020年春学期オンライン授業に関する学生アンケートまとめ」

(<https://sites.google.com/info.icu.ac.jp/onlineclass-j/home>) を参考にし、別表のように本学独自の分類を行った。

ここでは寄せられた意見の中で主なものを取りあげ、大学教育支援部門としての方針・対応策について記述していきたい。

1 学生からの要望

学生からの要望については、初期の混乱もあってさまざまなものが寄せられた。特にシステムに関する技術的な意見も多かった。具体的には例えば以下のようなものである。以下、学生からの要望例とそれに対するコメントを付していく。

1.1 システムについて

- ・PC/Tablet の環境により、資料が開けないことがある。
- ・音声データの音声が聞けなかった
- ・zoom か teams かなど学部単位で共通したツールを使って欲しい。
- ・システムの統一をお願いしたいです。ある教授は ZOOM、ある教授はウェブクラスのみ、など先生によって使う媒体が違うので学生側が混乱するし、精神的負担も大きかったです。
- ・琉大生が一日にチェックすべきサイトを一つに統一してほしい。HP、シラバス、ウェブクラスなど外部の媒体（ZOOM など）よりも情報が分散してしまい、確認する側が大変。
- ・資料を PDF ファイルで添付してもらえると拡大縮小が容易なため学習し安かったと思う。
- ・チームス重すぎました。
- ・ZOOM は途中で回線が重くなり音声が途切れたりすることがありました。
- ・先生側の音声トラブルで 2 回ほど全く聞けないことがあった
- ・たまにミュートにしないで講義を受ける人がいて、そのたびに授業が止まるのが鬱陶しかった。

以上からわかるように、学生はもちろん、教員もまだ慣れていないので、現段階ではさまざまなトラブルが生じている。教員向けの FD 等の研修会も必要であろう。

個人的な体験であるが、動画を作成した際、Windows に対応した wmv 形式でアップすると、Apple の端末 iPhone や iPad では再生できないことがあった。そこで、Apple に対応した mp4 形式でアップすると、たいいていの端末で再生することができるようになり、その問題は解決した。

このような問題は、ネット環境が整い、教員・学生双方の経験値が上がるにしたがって

徐々に解決していくと考えられるが、ネット環境に負荷をかけないように1本あたりの動画を短くする、画質を落とすなど、取り得る対策を検討する必要がある。

システムの統一に関しては、一つだけに集中しすぎるのはネット環境に負荷がかかる等の問題もあるため、現段階では難しいと思われるが、例えば、出席確認や課題の提出はWebClassに統一するなど、部分的な統一は検討していきたい。

1.2 授業の方法について

- ・パワポでの音声などがあればより良く理解できたのと思いました。
- ・専門的すぎるスライドには、動画などで捕捉をつけてほしいです
- ・PowerPointに音声を入れる機能を利用していたので、スライドのみの配布より対面授業に近い形で実施できていたように感じた。
- ・パワーポイントに音声が入るとは知らなかった。遠隔授業でありながらもきちんと先生の声が聞けて、集中力向上につながったと思う。
- ・音声付きのパワーポイントがとても分かりやすかった。
- ・よかった点は先生がスライドと一緒に声での解説を入れてくれていたので、より内容が入ってきやすかった。
- ・1週間だけでなくずっと資料や動画を開放してほしい
- ・毎回の講義（動画）を最後の日まで残して置いたら良かったと思います。（いつでも復習ができるように）
- ・テスト前に何度も動画を見返せるように動画利用可能期間を延ばしてほしい
- ・提出したレポートのフィードバックが全くなかったので、改善して欲しいと思った。
- ・課題が提出しっぱなしになっているため、フィードバックや採点のされたものの返却をお願いできればと思います。せめて解答解説の公開をお願いします。（そうでないと当授業で課題をやった意味がありませんし、勉強の意味がありません）
- ・課題を提出しても受け取り確認程度で先生からのフィードバックがほとんどないため良いのか悪いのかもよく分からないまま授業が終わってしまった感じがする。
- ・練習問題を解いたとき、教科書に解答がないため、自分の解答が正解かわからないので解説が欲しかった。
- ・解答、課題提出に対してのフィードバックが薄い科目もあり、虚しい印象が残った。
- ・メールをしても返してくれない先生がいらっしゃるのととても困りました。先生方も大変なのは重々承知ですが返信はしていただかないと、メールを見たかもわからないので返信はしていただきたいです。
- ・教師へメールを送っても、ほとんど返信がなく不安なことがあったので、何かしらの返信は、遠隔授業だからこそ尚更必要なのではないかと思う。

次に授業方法についてである。まず学生からの要望としては、パワーポイントの資料だ

けを示すのではなく、音声解説も入れてほしいというものであった。実際にそれを実践している講義では学生からの評価も高いようである。大学教育支援部門では『FDガイド 遠隔授業編』（http://www.ged.skr.u-ryukyu.ac.jp/divisions/division-2/kaihatusitu/publications/fd_guide）を2020年9月に発刊し、教員へ周知を図っているところであるが、その中でも「解説が録音されたPowerPointやその動画」を推奨している。またZoomの録画機能を使うことも推奨している。学生目線に立つと、資料配布のみではなく、音声解説入りの動画配信が望ましいと思われるので、今後も周知を徹底していきたい。

フィードバックも極めて重要である。学生からすると、提出物がそもそも受理されたのか、評価はよかったのか悪かったのか、教員からの返信がなければ把握しようがない。受講人数が多いとどうしても返信できなくなってしまう教員の立場も理解できなくもないが、フィードバックの重要性はFDガイドでも指摘しており、この点も周知をはかる必要がある。

1.3 シラバスについて

・間違っていたら申し訳ないのですが、私が把握した範囲ではシラバスに記載されている成績評価の行い方が対面授業を予定していた4月のときの成績評価で、変更されていませんでした。

授業内容に変更があった際はシラバスにも変更を加えると、より学びやすくなると思う。

- ・シラバスをもう少し正確にしてほしい
- ・オムニバスの授業ということで、資料を読んでレポート課題を課す先生と遠隔授業を行う先生に別れたが、先にシラバスに記載されているとありがたいと感じた。
- ・シラバスに授業形態を記入してほしい。例えば、「zoom等の機器を使って授業をします」や「資料をメールで配信するのでそれに基づいて課題を提出する」など。

遠隔に対応したシラバスの作成も重要である。特に2020年度前期は、混乱の中で遠隔授業が始まったため、対面を前提としたシラバスが残ったままになっている事例が多数あり、3割に達した。現在、遠隔に対応したシラバスの作成を呼びかけている最中なので、後期はこうした要望は減っていくと思われるが、引き続き周知をはかる必要がある。

なお、先ほどもふれた『FDガイド 遠隔授業編』には遠隔授業を前提としたシラバス作成例をオンデマンド型と同時双方向型（リアルタイム型）に分けて記述しているので、そちらの参照も呼びかけていく必要がある。

1.4 その他の要望

- ・友達ができない中、自分一人で教科書を理解するには限界があるので早く対面授業を再開してほしいです。

・自分はこのコロナの中で無気力になったりなどの軽い鬱のような症状が出て思うように課題がこなせなくて悔しかった。早く対面授業が再開できるようにコロナが収まって気兼ねなく勉強できるようになってほしいと思う。

・パソコンで本を読むのは目が疲れるのでつらかった

・長時間画面を見るのがきついです。イヤホンだと耳も痛くなります。

・この授業に限ったことではないが、前期は全てが遠隔授業になり、パソコンを見続ける時間が長かったため、目の疲労が増し、視力がかなり落ちた。

・生活リズムが崩れていっているような気がして、成績、共に向学心が低下しているような気がする。

その他の要望としては、特に新生がそうであろうが、友人関係を作る機会がないまま授業が始まり、孤独な中で受講し苦勞するといったものや、それが高じてやる気が出なかったり鬱気味になったりするというのが多かった。友人関係を結ぶ中で、わからないところを教えあったり情報交換したりしながら、受講するという本来の大学生の姿が消えている状態である。

また心理学の分野で、従来の対面式に比べ、オンラインの方がはるかに疲労しやすいという研究もある。視力の低下や体力の低下も指摘されている。

後期は対面式の授業もある程度増えていくことになるので、徐々にそうした状況は解消されるであろうが、授業外でもオリエンテーションを開催するなど、対策が必要である。

2 メリットについて

これまで主にデメリットについてふれてきた。自由記述に書き込む学生は不満を抱えている傾向が強いことから、どうしてもそうした記述が多くなるのは致し方ないところであるが、同じアンケートの中で満足度を問うた結果（設問 12）を見ると、「総合的に判断してこの授業に満足している」という問に対して「強くそう思う」（29.8%）＋「そう思う」（41.8%）と肯定的な回答が7割を超えており（71.6%）、おおむね満足しているとも言える。これは例年と比べても大差ない満足度である（例えば2019年度前期は75.9%）。今後、初期の混乱が収まっていけば、さらに上昇する可能性もあるだろう。

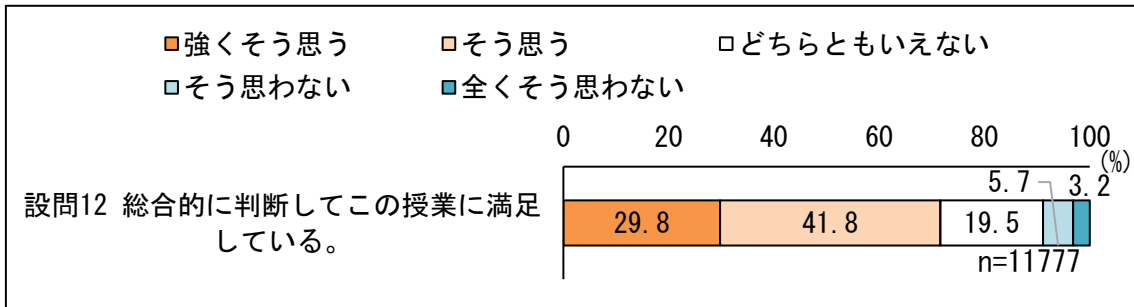


図1) 令和2年度前期における授業満足度

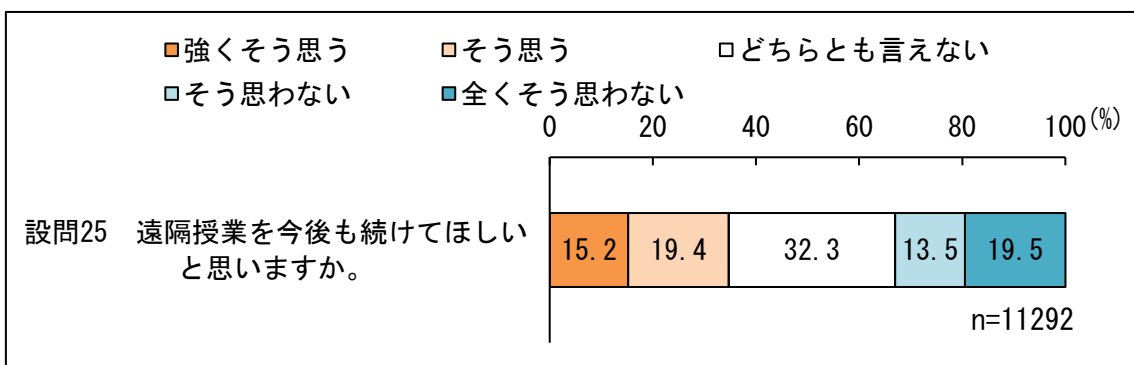


図2) 令和2年度前期における遠隔授業への継続期待

また設問25で「遠隔授業を今後も続けてほしいと思いますか」という質問をしているが、「強くそう思う」(15.2%) + 「そう思う」(19.4%) という肯定的な回答(34.6%)が否定的な回答(13.5%+19.5%=33.0%)とほぼ同率で拮抗している。このことからしても、決して反対意見が優勢を占めているというわけではないことがわかる。

もちろん、改善点に関する指摘に耳を傾けることは重要であるが、最後にこうした観点から肯定的意見についても例示しておきたい。メリットについては以下のようなものがある。

- ・遠隔授業だと自分のペースで勉強できるから楽しい。ずっと遠隔授業受けたい。
- ・できれば遠隔授業したいです。対面授業すればたくさん学生があつまなければならないです。非常に危ないと思います。
- ・普通の授業は遠隔で、実習などは対面でやった方が自分の時間をたくさん見つけて効率よく勉強する事ができます。今後も遠隔だとありがたいです。
- ・対面での授業で得られるものはあると思いますが、状況が厳しいなら今期のような遠隔授業でも十分に学べると思います。
- ・各授業で使うシステムがバラバラなのは情報を全て網羅するのが大変だったと感じました。しかし、授業を受動的に受けるだけよりは毎日自分で課題をこなし、動画や資料を繰

り返し見ることができる遠隔授業の方が学んでる実感はあったと思います。

- ・コロナ感染への不安がなく、通学や教室移動にかかる時間のロスもなく、集中して授業に参加したり課題に取り組むことができたので、とても充実しました。後期も遠隔授業を希望します。

- ・コロナで急遽遠隔授業となったため、遠隔授業への不満は相当出てくると思うが、間違ってもその意見が正しいなどと思わず、遠隔授業前提でこれからのカリキュラムを組んでほしい。遠隔が前提のカリキュラムなら不満点のほとんどは解消されると思うので、頑張してほしいです

- ・個人的には対面より遠隔授業の方が好きです。一年生なんで対面を受けてみたい気持ちもありますが、自分の好きな時に勉強ができるのはやる気も出るし、勉強する上でいいなと感じました。

- ・遠隔授業は教育の格差を解消できるものになります。すべての授業を遠隔にシフトすべきだと思います。

- ・遠隔授業は、対面授業とは異なり、周りに人がいないという点で、それらに気を取られることや人がいることで生まれる発言することに対する恥ずかしさといったものを払拭し、授業を積極的な姿勢で受講することができた。

- ・ステイホーム期間中や、その後も家事や家族の緊急の用事にいつでも対応できるため、今後も遠隔授業を継続していただけると助かります。無駄な飲み会や、授業時間の延長もなく、生徒の時間やプライベートを大切に尊重できる授業形態だと思います。

- ・教室移動などの無駄な時間がなく、おしゃべりでうるさい学生に煩わされることがなかったおかげで、むしろ集中して授業を受けられました。自己管理ができる学生にとってはどのような状況でも前向きに学び探求することができるので、実験や演習以外は遠隔授業でもいいと思います。

- ・学校へ行かなくても、授業が受けられて楽だった。

- ・自宅から出ずに講義が受けられるため、通学時間の短縮や、体調不良で受けられなかった授業も、自分の都合のよい時間にうけることができるのがよかった。

- ・暑い季節でも移動無しで講義を受けることができたので、スッキリとした状態で講義を受けることができて良かった。

- ・移動時間、費用がかからなかった。

- ・出向く必要がないのはよかった。今は、新型コロナウイルスであまり人と接触したくないので。

- ・大学が私の家から遠いので、家に居ながら授業を受けることができる点が良かったです。

以上のように、肯定的な意見も多く寄せられている。確かに、学習者の立場からすれば、好きな時間に好きな場所で、落ち着いて受講でき、わからない個所があれば何度でも

見直すことができる受講形態は、メリットも多いだろう。さらに、資料をもらいそこねたり、渋滞に巻き込まれたり、駐車場が見つからなかったり、遅刻の心配をしたり、黒板の文字が見えにくかったりといったストレスからも解放されるであろう。その意味で、こうしたポジティブな意見が多く出てくるのも理解できる。

おわりに

以上、学生の要望から見える遠隔授業の課題と今後に向けた対応について記述してきた。そこから導き出された今後の対応としては以下のようなことが考えられる。

- ・システムを完全に統一するのは現段階では難しいが、例えばWebClassを用いることを推奨し、少なくとも出席確認や課題提出には全学的に用いるようにすることなどを検討する。
- ・資料だけでなく動画等で解説をつけることを推奨する。
- ・シラバスを遠隔に対応したものに修正するよう周知を行う。
- ・特に一年次に対し、仲間集団が醸成できるような取組（オリエンテーション等）を実施する。

ただし以上のようなことは、先ほどあげた『FDガイド 遠隔授業編』の中でも記述されており、この内容を教員に周知させていくことも必要である。

今後、このような遠隔の形態が継続される可能性もあることから、ポジティブな点はさらに伸ばし、ネガティブな点は改善することによって、学修効果も上がることが期待できる。本稿が2020年度後期以降の遠隔授業を推進するためのエビデンスとなれば幸いである。